



## おもちゃ箱とめ プラス（児発） 事業所における自己評価総括表

|               |                 |        |                   |
|---------------|-----------------|--------|-------------------|
| 事業所名          | おもちゃ箱とめ プラス     |        |                   |
| 保護者評価実施期間     | 令和 8 年 3 月 2 日  |        | ～ 令和 8 年 3 月 23 日 |
| 保護者評価有効回答数    | (対象者数) 1        | (回答者数) | 1                 |
| 従業者評価実施期間     | 令和 8 年 3 月 6 日  |        | ～ 令和 8 年 3 月 17 日 |
| 従業者評価有効回答数    | (対象者数) 5        | (回答者数) | 5                 |
| 事業者向け自己評価表作成日 | 令和 8 年 3 月 25 日 |        |                   |

### ○ 分析結果

|   | 事業所の強みだと思われること  | 工夫していることや意識的に行っている 取組等  | さらに充実を図るための取組等   |
|---|---|---|--|
| 1 | 児童のことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援プログラム（個別支援計画）が作成されている点 | ・個別支援計画に沿ったプログラムを考え、集中して取り組めるようにしている。<br>・プログラムが固定化しないよう、季節の行事を取り入れて工夫している。   | 支援者と保護者との情報共有に努めるとともに、子どもたち1人1人の課題に向き合った支援計画を作成してまいります。                          |
| 2 | 季節や行事を通して、五感や情緒の育ちを大切にしたい体験型プログラム                                   | 季節毎の行事や制作活動、音楽・感覚遊びなどを取り入れ、子どもたちが楽しみながら自然や文化に触れられる機会を設けている。活動内容は「できる・できない」ではなく、「感じる」「楽しむ」ことを重視し、安心して参加できる雰囲気づくりを心掛けている。 | 行事や季節活動については、振り返りを行い、子どもたちの反応や変化を次回の企画に反映させることで、より心に残る体験となるよう内容の見直しや工夫を継続していきたい。 |
| 3 | 事業所の支援に満足していること   | ・休日や長期休業中には外出や買い物学習、調理実習などの活動を取り入れ、社会経験を積めるように工夫している。   | これからも保護者のニーズを把握し、より細やかな支援をめざしてまいります。   |

|   | 事業所の弱みだと思われること                           | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等   | 必要 |
|---|--|---|--|----|
| 1 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があまりない。 | 活動中に交流の機会を設ける事が難しいため。                                       | 交流の機会につなげていけるよう、担当者会議などの際に、児童館や学校の先生とコミュニケーションを取るようにしたい。       |    |
| 2 | 支援内容の見える化や言語化が職員ごとに差が生じやすい点。             | 支援は丁寧に行われているものの、職員の経験年数や専門性の違いにより、支援の意図やねらいが十分に共有されない場面がある。 | 支援の目的や関わり方を簡潔に整理した共有様式を活用し、記録やミーティングを通じて支援の意図を言語化する取り組みを進めている。 |    |
| 3 | 地域との交流など、地域に向けた事業所運営ができていない。             | 地域との交流はどのように進めれば良いか方法が難しい。                                  | 市町村や公共団体の助言を聞くなど、取り組みをしていきたい。                                  |    |